

	<p>教育目標</p> <p>夢中になって遊び 心豊かにたくましく 生きる力の基礎を培う</p>
	<p>年度末の最終評価</p>
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>各学年や一人一人の子どもの特性や発達に応じたきめ細やかな環境構成や学級全体や個に対する援助の在り方を、担任だけでなく、園全体で協議したり、環境の工夫や見直しを複数の教職員が共同で行ったりすることができた。その中で、一人一人の子どもらしさを十分に発揮し、互いに『影響し合い』多様な感じ方や考え方を知り、共同で一つのめあてに向かう楽しさや充実感を味わう姿がみられた。</p> <p>全学年とも、担任を中心に、全教職員で一人一人の子どもの様々な興味や『伸びようとしているところ』をとらえ、多様な活動ができる環境を整え援助の工夫をすることで、夢中になる姿がみられた。</p> <p>その中で3歳児『一人一人の発達の段階に応じた育ち』『安心感をもって生活する姿』『自分でやってみようとする姿』4歳児『経験の幅を広がり』『友達とつながろうとする意欲』『自分の思いや考えを自信をもって表す姿』5歳児『自分の気持ちをコントロールする姿』『多様な友達と協働で遊びを創り出す力』『粘り強く、工夫してやり遂げる姿』などがみられた。</p> <p>次年度に向けて、特に一人一人の子どもや学級全体での育ちをわかりやすく ICT も活用して周囲へ発信したり、それらの育ちの『つながり』を検証したりする。また引き続き身近な『自然』との関わりの中やその他の活動の中での『人と関わる力』の育ちにも焦点を当てて、保育の充実を目指す。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>地域や運営協議会などの行事が再開され、様々な機会に子どもたちの育ちの姿がみられた。園で様々な姿を表す子どもたちに、きめ細やかに対応していることがわかる。</p> <p>来年度も引き続き、地域行事や、図書活動また子育て支援などの分野での支援を強化していきたい。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月27日	学校運営協議会
最終評価	3月11日	学校運営協議会

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・本年度は『やってみよう!』『自分も友達も大切!』『しぜん大好き!』をキーワードに保育の充実をめざし、特に身近な自然との関わりの中での育ちに焦点をあてる。
- ・週案や指導案作成時、担任だけでなく他の教職員の意見も取り入れることで、より『その時』にふさわしい活動ができるようにする。
- ・毎日の保育の中での、子どもの育ちや環境や援助の工夫をポートフォリオで表す。
- ・親子で絵本ノートを活用した取組では、家庭とも連携し、子どもたちの心をより豊かに育む。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 週末のミニ園内研修や保育を伴う園内研修などでの、幼児理解や保護者の内面を深く読み取ったり、環境や援助の見直しを行う。その回数と事例（ポートフォリオ）の数。
- 「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数
- 保護者アンケート
 - ・幼稚園生活の中で成長したと思われませんか
 - ・夢中になって遊んでいると感じるときはありますか
 - ・園で身近な自然にかかわり、季節を感じる体験をしていますか
 - ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか
 - ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか
 - ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか
 - ・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか

中間評価

各種指標結果

- 週末のミニ園内研修での園環境の見直し内容や、幼児理解の内容
1 学期、各学年のスタート時に、週 1 回のミニ園研の中で、一人一人の幼児やクラス全体の実態の把握を特に丁寧に行い、保育の充実に努めることができた。2 学期以降は月に 1～2 回の教員全体や学年別での話し合いの機会を週に 1 回以上もつことで、より深い幼児理解や、適切な環境構成や活動に努めることができた。
- 週案をもとにした、保健指導や日々の感染対策への指導や安全指導の振り返り
週案の中に時期や実態に応じた保健指導や安全指導の内容も明示し、個々の幼児の実態に即した指導ができるように心掛けた。
- 「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数
ほぼ全園児が親子で絵本ノートを活用している。
学級では、全学年とも、週に約 4 冊の本の読み聞かせを実施している。
- 保護者アンケート
 - ・幼稚園生活の中で成長したと思われませんか
99%の保護者が そう思うまたはとても思うと回答（4・5 歳児は 100%）
 - ・夢中になって遊んでいると感じるときはありますか
99%の保護者が そう思うまたはとても思うと回答（4・5 歳児は 100%）
 - ・園で身近な自然にかかわり、季節を感じる体験をしていますか
100%の保護者が そう思うまたはとても思うと回答
 - ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか

	<p>100%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか <p>99%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答（4・5歳児は100%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか <p>98%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵本やお話に興味を持つようになってきましたか <p>97%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答（5歳児は100%）</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニ園内研修や園内研修において、テーマに即した内容に加え、その時々に必要な具体的な手立てや、教職員同士の連携などについて特に重点を置いて協議することができた。また以前にもまして、日々の教職員同士や担任と管理職との話し合いの時間を確保することで、多様な活動や個別に適した活動を保育の中で展開することできている。 保健・安全指導は、学年や時期や個別の状況に応じて、理解しやすいように『視覚的な教材（手作り）』を活用して行っている。特に園外での安全な行動の仕方（道路の通行や横断など）を家庭とともに身に付けられるように取り組んでいきたい。 絵本やお話への興味は、保護者も実感しておられるように、着実に高まってきている。今後さらに園内の『絵本環境』を整えていくことで、より質の高い読書体験ができるようにする。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任はもとより、多くの教職員で一人一人の幼児の姿やクラスの実態にとらえ、細やかな環境構成や、言葉かけや見守り方など援助の仕方の工夫を日々積み重ねていく。 一人一人の特性に応じて、安全に活動できるよう、環境の整え方や教職員の援助の在り方についての工夫を重ねる。 より多くの幼児の絵本やお話への興味を高めるために、まずは絵本室の環境や他の場所で絵本に親しめる場などを整え、さらに魅力的になるような工夫をする。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>週末のミニ園内研修での園環境の見直し内容や、幼児理解の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○週案をもとにした、保健指導や日々の感染対策への指導や安全指導の振り返り ○「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数 ○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園生活の中で成長したと思われませんか 夢中になって遊んでいると感じるときはありますか 園で身近な自然にかかわり、季節を感じる体験をしていますか 自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか 生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか 絵本やお話に興味を持つようになってきましたか
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者が幼稚園に対して、信頼感を持ち、多くの保護者は具体的な子どもたちの成長を感じておられる。 一人一人の子どもはもちろんのこと保護者のニーズにさらに的確に応えられる「園体制」を作っていてほしい。 今後も、絵本ボランティア・地域行事との連携などで協力していく。

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <p>○週末のミニ園内研修での園環境の見直し内容や、幼児理解の内容 多忙ではあるが、こまめに『ミニ園研』を行うことで、一人一人の子どもや学級としての育ちや課題をその都度見直し、園環境の見直しや活動の取組方などについて協議することができた。</p> <p>○週案をもとにした、保健指導や日々の感染対策への指導や安全指導の振り返り その時々状況により、保健指導や特に安全指導を計画的に学級活動に取り入れていくことで、各学年の発達に応じて『自らを律する』力が身につけてきている。</p> <p>○「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数 半数以上の子どもが100冊を超えることができた。その他の子どもも、学級で取り上げる遊びのテーマに関連した絵本やお話に自ら興味をもつ姿みられる。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか 100%の保護者がそう思う・とてもそう思うと回答 ・夢中になって遊んでいると感じるときはありますか 100%の保護者がそう思う・とてもそう思うと回答 ・園で身近な自然にかかわり、季節を感じる体験をしていますか 99%の保護者がそう思う・とてもそう思うと回答 ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか 95%の保護者がそう思う・とてもそう思うと回答 ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか 98%の保護者がそう思う・とてもそう思うと回答 ・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか 98%の保護者がそう思う・とてもそう思うと回答
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもたちの発達の道筋にそっての育ちを保護者の方々も実感されている。 ・学年が上がるにつれて、他の人と『協働』や『自分でやってみよう』とする力の育ちが明らかになっている。 ・特に身近な『自然』の中での子どもたちの『探求心』『意欲』『コミュニケーション』などの力の育ちもみられる。 ・一つ一つの『活動』『育ち』のつながりや、子どもたちがより集中したり、理解したりできるような、環境や特に教師の言葉かけや活動の組立の工夫をさらに重ねていく必要がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに丁寧に、保育の中での小さな『出来事』もエピソードとしてまとめ、環境や教師の援助の工夫した点やさらなる改善点などを明らかにできるようにする。 ・保護者の方々と共に、幼児期の『子育て』を楽しく充実したものにしていくため、園の環境やICTの活用の仕方の見直しを進める ・引き続き、子どもたちの『多様性』を認め合える子どもや大人の関係性の構築を目指す。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT の活用などの工夫も大切であるが、一方で従来からの『人と人のふれあい・かかわり』の大切さもさらに重要になってくると思うので、子ども同士や保護者の方と園の子どもの関わりの機会を充実させていってほしい。 ・園からの要請があれば、様々な保育や行事の場で直接的な援助を行っていく。
---------	--

（２）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の育ちを、小中学校等にもわかりやすく発信する。 ・コロナ以前に行っていた交流や連携の取組を徐々に行っていく。 ・架け橋期（幼稚園）の指導計画の見直しを行い、小学校へも発信する。 	<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間計画の作成と進捗状況や幼小連携の振り返り ○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組
---	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>○計画の作成と進捗状況や幼小連携の振り返り</p> <p>園からの働きかけに努めたことで、昨年度に比べ、2 学期後半以降の小学校との合同の取組の計画が進んだ。</p> <p>教職員は KKP の取組を通じて、教員一人一人が自覚的に連携に取り組む姿が見られる。</p> <p>○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組</p> <p>幼稚園側の『接続期カリキュラム』作成の基礎となるように、週案をもとに、日々の保育を見直している。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の作成に向けては、長期的に取り組む必要があると判断したので、まず今年度は、互いの教育・保育を『参観する』→その中での『非認知能力』の育ちを探索する取組を行う段階にまで至ること目指し、具体的に、2 学期後半から 3 学期に行うこととなった。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き『みつば幼稚園オープンスクール』を 12 月に実施する。昨年度以上に参加者数を多くできるようにし KKP の施設に積極的に働きかける。その中で幼稚園だけでなく、保小中の教職員の『非認知能力』の育ちを見る目を高められるようにする。 ・本年度より、園児と児童との直接的な関わりをもてる取組が再開し、その中での育ちを共有できるようにする。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間計画の作成と進捗状況及び ICT を活用した幼小連携の振り返り ○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、園からだけではなく、地域からも、小中学校に働きかけ、積極的に『合同』の取り組みが行えるようにしていきたい。

価	
---	--

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>○年間計画の作成と進捗状況及び ICT を活用した幼小連携の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の小学校と進めるカリキュラムづくりの基礎となるよう年間計画の見直しを進めている。 ・幼小の連携の取組の一環で行っている『みつばオープンスクール』の取組の中でも保育公開の日以外の姿を映像などで示すことができた。 <p>○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な交流の前後や小学校の運営協議会、KKP の取組、オープンスクールなどの機会を通じて、幼稚園の保育の中での、小学校以降の学びにつながる様々な遊びの中での育ちを共有することができた。
	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KKP の取組の中でも、『学校教育』のスタート地点としての幼児期の教育の中での育ちについて、共通理解を進めることができた。 ・オープンスクールでは前年度よりも多くの参加者があり、幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿に基づい小学校の先生方と目に見える形で遊びの中の育ちを共有することができた。 ・今年度初めて行った西陣中央小学校で行った新 1 年生の『遊びのコーナー』環境作りに幼稚園の教員が参画した取組は、次年度以降、他校にも広げていけるように働きかける。 ・今年度初めて行うことができた近隣の幼児教育施設との共同の取組を今後とも充実させていきたい。(子ども同士や小学校との交流の継続・教職員間の交流 (互いの保育参観や協議など) の継続と発展)
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、感染症による制限がほぼ緩和されたことにより、次年度以降は年度当初に一年間を見通して、取組の計画を立案する。 ・ICT を活用し、園の取組 (遊びの中での育ち・環境や援助の工夫) を小中学校にも発信する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、KKP の取組や関係学区の小学校との取組が活発に行えるように、直接的に、小中学校に働きかけていく。

(3) 預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝登園時の様子、保育中の様子・健康状態や子ども同士の関係性など、預かり保育担当者とクラス担任、および家庭と連絡を密にする。 ・個々の興味に応じた遊びをゆったりと楽しめる環境構成を行う。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方にとって、預かり保育は子育て支援として役立っていますか

- ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。</p> <p>日々の預かり保育の様子を担当者だけでなく、教職員も捉え、通常保育との『つながり』も意識して保育計画を立てられるようにしている。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方にとって、預かり保育は子育て支援として役立っていますか 100%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答（利用されていない保護者は除く） ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか 97%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答（利用されていない保護者は除く）
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な週案立案や週の振り返りを心掛けることで、特に3歳児の利用者も増えてきているが、預かり保育の利用時間が『安心した時間』となりつつある。 ・今年度『預かり保育通信』を定期的に担当者が作成し、預かり保育での子どもたちの様子や育ちなどを発信する取組が始めることができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育は利用する時間がさまざまであるが、短時間・長時間利用双方の子どもが、遊びを十分に楽しんだり、休息をとったりできるような、活動の流れの工夫をさらに行う。 ・『通信』の内容のさらなる充実や作成時の効率化を進める。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容と、感染症対策の振り返りを行う</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方にとって、預かり保育は子育て支援として役立っていますか ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の中で学校運営協議会主催の『みつばの森運動会』を4年ぶりに再開することができ、理事が預かり保育のことを知る機会ともなった。 ・利用者数が増えている状況で、教職員が通常保育のさらなる充実に向かえる時間が少なくなってしまうような配慮が必要となってくるのではないかと考えている。（ボランティアの充実など）

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容と、感染症対策の振り返りを行う</p> <p>日々の預かり保育の環境構成や参加している子どもの姿を担当者が担任や管理職と共有し、より多角的に一人一人の子どもの姿をとらえて、援助していけるようにすることができた。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方にとって、預かり保育は子育て支援として役立っていますか 利用されている方の99%がそう思う・とてもそう思うと回答
--	---

<p>・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか</p> <p>利用されている方の 96%がそう思う・とてもそう思うと回答</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本園の預かり保育は早朝利用も含めて、年々増加傾向がみられる。その中で、一人一人の子どもの『今』の姿を担任以外も広く共有し、預かり保育担当者も担任と同じ視点・援助の方向性をもって関われるようにすることができた。 ・担当者が『預かりなかよし通信』を作成し、広く預かり保育の取組を保護者の方にも知らせる取組を行っている。 ・多くの利用者がある中で、学年だけでなく個人の特性に応じて、安定できる場作りを心掛けたが、さらなる工夫が必要である。 ・また、人的配置もさらに充実させて、一人一人の『安定』や『意欲』を高められるようにしたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な発達に適した活動や、異年齢児同士の関わりなどが生まれる活動などの工夫を担当者を中心に、他の教職員を共に進めていく。 ・さらに、預かり保育の中での子どもの育ちの発信や、活動内容、保護者の方への発信などを充実させていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本園の預かり保育は利用者が多いということを開き、通常保育だけではない園の『使命』（働く保護者や保護者のリフレッシュの支援）が必要となっていることがよく分かった。 ・年二回の学校運営協議会の預かり保育支援だけでなく、今後さらに直接的な支援ができないか、検討を進めていく。

（４）子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人懇談会やクラス懇談会、登降園時を活用した家庭とのきめ細かな連絡・連携を行う ・未就園児親子が安心して好きな遊びを十分に楽しむ場や子育ての喜びや不安を話せる場となる教育相談を行う。 ・８月後半より開始予定の『満３歳児預かり保育』の充実に向けて、教育課程試案の作成を行う。 ・始業式・終業式・参観・毎月の誕生会後『ほっこり子育て広場』や家庭教育研修などの機会に、幼児期の子育てについて話し合ったり、園からも子育てに必要な情報を知らせたりする。 ・ホームページ掲載や地域・小規模保育事業所へのチラシ配布など教育相談を広く発信する。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <p>○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページでの教育活動の発信</p> <p>○保護者との『話し合い』や情報発信の回数。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか <p>（おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話し合いなど）</p> <p>○担当者による記録や満３歳児保護者アンケート（後期）により、取組の振り返りを行う。</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページでの教育活動の発信 懇談だけでなく、毎日の保育前後の保護者との話し合いや、より多くの保護者とのコミュニケーションをとる努力を重ねてきた。またその内容は管理職をはじめ、多くの教職員で共有し、よりの確な援助につなげるようにすることができた。</p> <p>園だよりは、内容を精選し『読みやすく・伝わりやすい』ものになるような工夫を重ねている。</p> <p>ホームページの発信回数は、少ない時期があった。</p> <p>○教育相談の内容の振り返りとホームページでの発信回数 教育相談は参加者の年齢層や参加数に応じて、内容の工夫を行っている。(計画時や当日など) 満3歳児(つばみ組)の預かり保育が9月よりスタートすることができた。</p> <p>ホームページを活用して、活動内容を前月に、広く知らせている。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか 100%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答 ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか(おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話し合いなど) 96%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答(昨年度より9ポイントアップ)
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度導入された連絡アプリを最大限に活用し、よりの確に時期に応じた情報を発信することができた。一方で配信回数が増える傾向がある。 ・教育相談(未就園児クラス)は前年度よりも回数を増やすことができています。 ・満3歳児預かり保育の利用者が増加し、子どもも保護者も安定して『満足』している姿がみられる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者にとってさらに『読みやすく』『伝わりやすい』表現に心がけていきたい。 ・さらに連携を進め、保護者や園からの子どもに対する様々な思いや願いを交流させ、その内容を必要に応じて園全体で共有し、一人の一人の園児を支えていくようにする。 ・満3歳児預かり保育の充実を目指し、引き続き園内の人員配置や安全対策などの工夫を行う。 ・日常の保育や行事の様子を、登降園時や懇談・参観時に映像で伝える。 <p>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</p> <p>日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページでの教育活動の発信</p> <p>○教育相談の内容の振り返りとホームページでの発信回数</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか <p>(おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話し合いなど)</p>
学校関係者評	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多忙なか『発信』は大変なことと思われるが、回数を重ねることよりも大切だが、一方で、一回一回の発信の中で『伝えたいこと』を明確にすることのほうが重要だとも考える。 ・園での子どもたちの様子を文章や口頭だけでなく、映像で伝えることも増えてくるのがよく

価	分かった。
---	-------

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <p>日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページでの教育活動の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教職員が、ゆっくりと保護者の方と話す機会を作るために、時間や場づくりなどを園全体として組むことができた。 ・一人一人の子どもの、その時々の実態を的確に把握し、担任以外も丁寧に対応するように努めた。 ・園だよりは、昨年に引き続き、見やすく『何を伝えたいのか』を明確にするように努めた。 <p>○教育相談の内容の振り返りとホームページでの発信回数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談～子育て支援～では、今年度試行的に全市のパイロット園として取り組んだ満3歳児保育に関しては、クラス参加者数も10名を超え、満3歳児保育の意義や重要性を発信し、教育課程さ育成も行うことができた。 ・ホームページはほぼ昨年度並みとなっている。 <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか 98%がそう思う・とてもそう思うと回答 ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか (おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど) 95%がそう思う・とてもそう思うと回答
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの様子や育ちを、保護者の方と共有することを大切にしているが、クラス懇談だけでなく、グループで話し合う機会を増やすなど、さらに時間的にも内容的にも充実させていきたい。 ・園だよりもより見やすく、『伝えたい内容』を明確にして発行できるようにする。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談は満3歳児クラスの充実と発信に加え、従来の0～未就園児クラスと2歳児クラスの2つのクラスの内容の充実を目指す（子どもの遊びの種類の充実だけでなく、保護者の方々が学び合った『やりがい』を感じたりできる機会を設ける）
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園としての役割が以前に比べ、多岐にわたっていることが、ここでもよく分かった。特に子育て支援に関しては、地域の諸団体にも周知し、さらに利用者や支援者が増えるように働きかけていく。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校との連携や交流を行ったり、PTA活動や学校運営協議会と連携した地域行事を保護者
--

に案内し参加を呼び掛けたりする。

- ・感染症対応状況により、可能な範囲で、隣接する高齢者施設のことを知り、つながりを感じられるような交流を行なう。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り
- 地域行事への参加の様子の振り返り
- 高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り
- 保護者アンケート
- ・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。

中間評価

各種指標結果

- 高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り
やはり今年度も施設利用者の方との直接的な交流をもつことは難しいが、園の行事と一緒に参観していただくなどの交流を始動することができている。
- 上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り
上京中学校2年生の家庭科の授業の中での『ふれあい体験』や『チャレンジ体験』の受け入れを再開し、交流する機会をもつことができた。
- 地域行事への参加の様子の振り返り
様々な地域行事の再開が始まり、家庭から様々な行事に参加する機会は多くなり、多様な経験をするできるようになっていきている。
- 保護者アンケート
・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。
93%の保護者が そう思うまたはとても思うと回答

自己評価

分析（成果と課題）

- ・高齢者施設との、直接的な交流の再開へのハードルは現状からして厳しいが、引き続き、可能な方法で行うことができた。
- ・在園児や未就園児保護者や教職員を対象に施設との合同研修会も開催した。
施設主催の『車いす体験』に5歳児が参加する計画がある。
- ・地域とのつながりの中で子どもたちの育ちがみられますか。の設問は昨年度と比べて24ポイントアップした。
- ・昨年度に引き続き、地域や近隣の幼児教育施設（小規模保育施設も含めて）に、毎月園の『おたより』その他を発信することを行っていることで、園の日常の取組や、園での子どもの育ち、保育の中で『大切にしていること』を、様々な立場の方に知っていただいている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・さらに地域・運営協議会（みつばの森）教育振興会（みつば会）などとのかかわりの中での育ちを保護者に発信する努力を続けていく。
- ・上京中学校との交流などでは、事前協議は行っているが、短時間であっても事後協議（リモートも含めて）を行えるよう申し出る。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り
- 上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り

	<p>○地域行事への参加の様子振り返り</p> <p>○保護者アンケート</p> <p>・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・負担感ではなく、『地域の中で育つ』という安心感を保護者に感じてもらえるように、無理なく参加できる行事にしていきたい。またそのために『従来通り』ではない取組方も考えていきたい。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り</p> <p>・高齢者施設の管理上、今年度も直接的な関わりをもつことは、難しかったが、園や地域の屋外での行事、デイサービス利用者様との交流、年長児の車いす体験、保護者や教職員の合同研修など、昨年度より多くの交流をもつことができた。</p> <p>○上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り</p> <p>・家庭科や職場体験など、昨年度と同様の交流を行うことができた。</p> <p>○地域行事への参加の様子振り返り</p> <p>・地域行事への参加は、保護者の方々も積極的に関わられ貢献される姿がよくみられた。その姿勢が子どもたちの参加への意欲や、地域とのつながりを感じることにもつながっていると思われる。</p> <p>・KPP の取組の『あいさつ運動』は園内で行っているが、子どもたちの意欲や自己有用感が高まっている。今後さらに充実させていきたい。</p> <p>○保護者アンケート</p> <p>・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか</p> <p>85%がそう思う・とてもそう思うと回答</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>・高齢者施設との関わりはコロナ以前の状態に戻すことは難しいが、特に年長児にとっては、幼稚園のお隣で、身近に見守っていただいている方がおられることを今後、保育の中で、繰り返し知らせていく。</p> <p>・上京中学校との交流は、日程調整の難しさはあるが、中学校の先生方が、園を知る機会を引き続き設けていく。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・子どもたちが育つ中で、地域との関わり大切さや、その中で育っている様々な姿を、保護者の方にも積極的に知らせていく。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・幼稚園の保護者や子どもたちの活動が地域を活発にしてくれている。</p> <p>・地域のつながりは、本学区の強みであるので、さらにその意義を広め、参加者が多くなるように、園でも取り組んでいってほしい。</p>

（６）教職員の働き方改革について

重点目標
前年と比べ、すべての教職員の超過勤務時間を削減し年休等の取得率を上げる。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の教職員が『働き方改革』の意義を理解し、常に意識して業務を行う。 業務の中で、時間をかけて行うものと効率化を図るもののメリハリをつける。 常に見通しをもって業務にあたり、必要な時には自らサポートを求めたり、他をサポートしたりする 保護者の方々や地域の方々にも『働き方改革』の意義をお知らせし、ご理解いただく。
(取組結果を検証する) 各種指標
・教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <div><div>・教職員の勤務時間の推移・ ・管理職は－10 時間・その他教職員は－3 時間/月</div><div>・年休や特休の取得率・ ・増加してきている。(特に子育て特休)</div></div>
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <div><div>・今年度も、園としての新たな取組、地域行事の再開、園児数、教職員の異動などにより、超過勤務時間の減少が難しい状況ではあったが、徐々に減少してきている。</div><div>・会議や打ち合わせの方法の見直しを続け、回数時間とも減少している。その時間や労力を保育についての話し合いや環境構成などに活用できている。</div></div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <div><div>・さらに、特に保育に関わること以外の、一人一人の業務の効率化をさらに進める。</div><div>・教職員間での業務の分担の見直し・先を見越した事前の準備・ICT を活用した効率化などを進める</div></div>
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <div><div>・教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率</div></div>
	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <div>より良い『教育活動』のために、幼稚園全体が協力をしあっていることを感じる。さらに必要に応じて地域の人材も活用できるように、園から積極的に声を上げてほしい。</div>

最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <div><div>・教職員の勤務時間の推移・・・研究発表・大会準備時期に管理職は増加する傾向が見られたが、全体として減少傾向がみられる。</div><div>・年休や特休の取得率は平均して増加傾向にある。</div></div>
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <div><div>・様々な担任業務を他の教職員が分担し、園全体で取組姿勢が定着している。さらに計画的に業務の分担をする必要がある。</div><div>・園としての新しい取組や、より丁寧な一人一人の子どもの個別の対応に向けての時間が必要と</div></div>

学 校 関 係 者 評 価	なり、特に管理職は勤務時間の削減は難しい状況にあった。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・より効率的業務が行えるように、ICT の活用や業務の分担をさらに進めていく。
	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・園の業務は『子どもたちのため』にという思いが強く、削減することは難しいことは十分に理解できるが、一方で教職員の『働き方』をよりよくしていくことは、さらなる教育の質の向上につながることもあるので、方策を共に考えていきたい。